



チイキケイカク クエスト

▶ **START**





❶ 西海北小地区



JA長崎せいひ
北部営農センター
平尾センター長

JAの指導員も参加したので、作付品目など情報共有が早かったです。

農家と関係機関と一緒に農業について考える時間は何よりも収穫でした。



JA長崎せいひ
北部営農センター
永田課長

地域協議の場



農業委員会
事務局
谷内係長

現場の声や意見は私たちにとても学びの多い時間になりました。

「なるほどなあ」と唸る場面も多かったです。これからですね！



農林緑推進課
本田主査



❷ 亀岳小地区



❸ 西海南小地区

地域協議の場では、「後継者不足」や「離農による耕作放棄地の増加」など、各地域の共通した課題を改めて感じました。今後とも迅速で円滑な農地の貸借に努めていきたいです。



市農業振興公社
高木理事長



農林緑推進課
森山主査

農家さんとお話する中で普段は聞くことがなかった想いや課題を教えていただく機会にもなりました。

ご参加いただいた皆さん。ありがとうございました。



県央振興局 西海事務所
田中係長



❹ 雪浦小地区

SAIKAI QUEST



※QRコードはゲームのコンテンツにつながるものではありません。協議の結果などをご覧になれます。

地域計画とは…

自分たちの暮らす地域における持続可能な農業のあり方や守るべき農地など農地の活用方法や、集積・集約化について、地域で考えて実行していく計画です。



全12地区(旧小学校区)の一部ですが、協議の場のダイジェストをご覧ください☆

農林緑推進課
富永主事

1 西彼北小地区

川原 大昌さん

「今朝は何時から収穫ですか？」
「4時半ですかね」と、寒さの残るハウスの中で答えてくれた川原さんは就農13年目、子育て真っ最中のいちご農家さんだ。
朝から収穫し、収穫後はパックに詰める。サイズや形の異なるいちごを瞬時に見分け、手数少なくパック詰めする職人技はまさに見惚れる手元である。
元々、会社員として勤めていた川原さんだが、30代でUターンし、親元で学び、今や経営主。
農業は「自由」「自分で考えてできる」その半面、天候に左右されやすい部分はあるものの、「やった分だけ作物が応えてくれる」と話してくれる姿は眩しかった。



作業のひとつひとつを丁寧に

2 大串小地区

岡 修治さん



色々な品種を作っています！

Q 「何年目の木ですか。品種は？」
A 「これは3年目の木で、青島を接いだ『古田』という品種。元ヤクルトの選手と一緒にの漢字ですよ（笑）」
笑いながら、みかんをてきぱきと収穫する岡さんは農業委員も務め、現在は農地利用最適化推進委員である。
自らも地域農業を支えながら、その変化を長年見てきた岡さんは地域の課題を、「地域計画の協議の場でも話したけど担い手が少ないのがね。とにかく人がおらんとさね。自分もあと10年は頑張らないと...。しいきるかな〜10年も」
「岡さんは大丈夫！」と収穫の手伝いに来てもらっている近所の方々に太鼓判を押してもらっていた。

3 亀岳小地区

永田 賢志郎さん

今は米農家のイメージが強いが、元々は鹿児島県や大瀬戸町で13年近くお茶関係の仕事に就いていた永田さん。
家業である米農家になったのは約7年前で、令和6年度はヒノヒカリとなつほのかを栽培。「黄金色になり、実ってきたな〜という秋口は嬉しいですね」と季節を感じながら、農業を楽しんでいる様子。
地域内外問わず、農地の賃借の話も多いため、ドローン防除や機械の大型化など省力化に繋がる経営も実践。加えて、昨年は市の農産物等販売力強化対策事業を活用して導入した色彩選別機も効果的であり、評判が良いとのこと。今後の活躍も楽しみみな存在である。



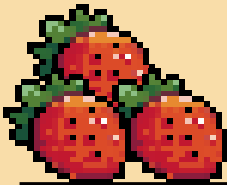
家業を継いでよかったです★

4 白似田小地区

相川 泰行さん

ビニールハウスが立ち並ぶ平原地区でいちごの栽培をしている泰行さんは農協で指導員の経験もある農家だ。就農するタイミングで先々を見据え、ハウスのリース事業を活用し、経営面積を増やした。
学校の役員も務める泰行さんと農業委員を担う父の浩一さんは仕事以外でも多忙なため、互いに個人の時間も尊重し、公私ともに協力する姿が印象的である。

繁忙期など人手が必要な時期は親戚の手伝いやシルバー人材センターなどの労力支援も活用している。
「うまく作れたときは、とても嬉しい」と笑う目線の先にはもう新しいことを考えている様子も伺えた。



いちご作りは奥深くて面白い！

5 西海北小地区

原口 佳晃さん



しっかり乾いてきたかな〜。

「まだ全然、寒くないよ」と面高地区の風物詩でもある『やぐら』の上で大根の乾き具合を説明しながら、原口さんは慣れた足取りで先へ進んだ。
海からの強い潮風と陽射しで、干した時間帯の異なる大根が順番に色を変えていた。早いものは夜中2時。
大根のゆで加減も日によって変え、干し方ひとつでも風の強さ、天気、湿度など気象状況を細かく確認しながら、慎重に作業を進めていくそう。
ゆで干しの産地として伝統食を守っていききたい気持ちもこの美味しさに一役かっているのかもしれない。

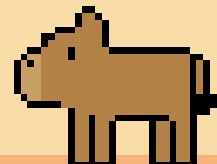
6 西海東小地区

瀧 栄太郎さん



地域の農地を活用したいですね。

「最近飼料価格が高騰しているし、仔牛の値段も下がってきている。将来的には荒廃農地を活用し、100%自給飼料での経営を目指したい」と将来の展望を語ってくれた瀧さん。
市や県の補助金等を活用し、荒廃農地を再生し、積極的に放牧に取り組んでいる。
会社勤務の時期もあったが、地元に戻り、父とは別の経営体にて経営を始めた。
「かけあわせを考えた血統や自分の与える飼料、育て方で高く評価してもらえるような牛が育つと嬉しい」「今、放牧している牛は3〜4月に出産予定です」と丁寧に母牛の状況を話す姿は今後の地域農業を担う頼もしい横顔だった。



7

西海西小地区

原口 伝さん

「一棟で3600株は植えてあると思います」と話すハウスでは腰上あたりまでトマトの苗が伸びていた。丁寧に周囲の草をとりながら弦に巻き付けた紐を結び直していく。紐に余裕があるが、ここからぐんぐん伸び、最終的に背丈を越す高さまで成長するそうだ。紐で吊るすことで横への広がりを軽減している。

「こうしたらどうかと自分で考えたり、共に栽培する妻の助言を参考にしたり、他の生産者と話すこともありますね」と話す原口さんの顔からは、『元祖桃太郎』を守りながらも、失敗や挑戦を重ね、よりおいしいものを自分で作ることへの楽しさが溢れていた。



色がだんだんついてきていますね。



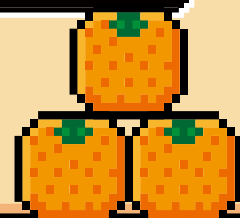
8

西海南小地区

岩崎 大さん



昨日もいのししが来た様子が



この名字を聞くと、すぐさま連想できる極早生品種の「岩崎」は、岩崎さんの中浦北郷のみかん畑で発見された品種であり、今でも原木がある。発見したのは祖父の傳一さん。そこから近所の方々も「ものは試し」と、木に接いでいき、「岩崎」の品種は広まったと言われている。

繁忙期は収穫日を決めて、5、10人ほどで収穫や選別作業をしている。近所の方などには、春先から「収穫時期はお願いね」と声をかけているそうだ。

数年前に経営主となった大さんはDa-i-wasaki Farmとして加工品にも挑戦する好奇心旺盛な農家だ。

10

多以良小地区

相川 友樹さん

温厚な笑顔で出迎えてくれた相川さんは県農業大学の養成部を2年、研究部で2年の計4年間、果樹について学び、平成23年に就農した。農地は祖父が長年みかん栽培をしていた場所である。

「普段は保育園に通っていますが、たまに下の子が縦横無尽に楽しそうに遊んでいますよ」と畑での子どもの様子も話題に。

地域計画の協議の場では、この辺りは若手農家が少なく、心配していたが、この地域は「多以良米」「多以良中生」のように、地域特性を活かした栽培を継承する農家がこれから増えるかもしれない期待をしている場所でもある。



今からの繁忙期、楽しみです!



11

瀬戸小地区

白石 政浩さん



加工も加熱もできるすごい野菜★



下山地区でメロンとミニトマトなどを栽培している白石さんは農家歴28年。

子どもが学生の頃は、子どもの帰宅時間に合わせ、夜遅くに食事をとることも多かったそう。

そのことについて、白石さんは「二日の中でも家族で食事をとりながら、その日の出来事を話す時間はとても大事。子育て期は時間のやりくりが大変というよりも逆にモチベーションの高さに繋がっていた。帰宅時間が遅いならその分、作業しながら待つことができる。」と。農業、食育、趣味など豊富な話題の一方で「半分、誇張しているかもね」と冗談っぽく笑う姿はユーモア豊かで話が尽きなかった。

9

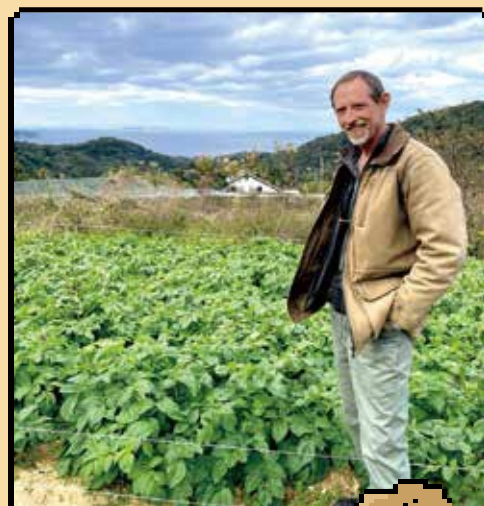
大島崎戸地区

フィッシャー・バーノンさん

農業の実務経験も培っているため、大島での就農に不安はないのかと思いきや「母国アメリカとは市場、気候、作物、病気、害獣などが全く違うため、ゼロから始める感じが近い」と言いながらも、堆肥作りや資格の勉強に励み、自分の目指す農業に近づけていく姿は今後の活動が非常に楽しみである。

大島では「地域で生きている感覚がある」と話すだけあって、地域の方々とその紹介で広がる人脈の輪が心地良さそう。

手入れが行き届かなくなった農地をフィッシャーさんが購入し、耕作し始めたことで、道路周辺の除草作業を地域住民と一緒にやって行うなど、地域の方々の心境や景観の変化にも繋がっている。



景色のいい場所で最高ですよ。



12

雪浦小地区

山本 博己さん

農地利用最適化推進委員になって地域の農地を見て回るうちに、「自分でもやってみようかな」と思い、周囲の農家に栽培方法を聞きながら、先祖代々の農地を活用してブロッコリーの栽培を始めた。

冬の空気の冷たさと日差で、葉についた朝露がキラキラと輝いている。「作付した1年目は上手にできたが、2年目は水はけがうまくいかずに満足のいくものができなかったこともあったりね。」と振り返りながらも、笑顔。

「農業は手を抜いた分だけ一発でわかるから。地道にやらないとね」と奥深い一言。



工夫次第で可能性は∞



地域計画

策定したそのあとは？

1



西海市は地域計画を策定した！

2

2年後…



3

そうならないためにも…



4

策定したあとは目標地図に描いた農地利用を実現できるように見直しや協議を行いながら、実行していこう！

to be continued...



中間管理事業で集積・集約化

農地中間管理機構では、農地の集積・集約を目的とし、適切な農地の管理の手続きを担う事業を行っています。具体的には農地の貸借にかかる契約手続きや賃借料の調整や情報提供、農地の管理の支援などがあります。

中山間地域でもある西海市では、農地の集積・集約を行うことにより、担い手が負担なく耕作し続けられるように農地の適切な管理をともに考え、目指していくことも大切です。

そのため、策定中の地域計画の「目標地図」に記載した農地の出し手と受け手の意向を尊重しながら権利設定を手助けする役割も担っています。



市農業振興公社 津口局長

中間管理事業

使ってよかった！

日頃から農地の相談を受けることも多い有限会社ファームまるださんでは農地中間管理事業を活用して農地の貸借を行なっています。

出し手と受け手の間に中間管理機構が入ることにより、スムーズに手続きが行えることや、貸借後の賃料の支払い等についても安心できるシステムがメリットとしても挙げられます。



中間管理事業を活用して貸借した農地